

## 令和7（2025）年度 資源評価調査報告書（拡大種）

種名	タナカゲング	対象水域	日本海（新潟県～鳥取県）
担当機関名	鳥取県水産試験場、水産研究・教育機構水産資源研究所 底魚資源部、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター	協力機関名	

## 1. 調査の概要

新潟県～鳥取県における月別漁業種類別水揚量に基づいて漁獲状況を把握した。石川県では主要10港の漁獲量を集計した。福井県ではノロゲングを含むゲング類として漁獲量が集計されていたため、参考程度に留めた。また、日本海ズワイガニ等底魚資源調査（トロール）による採集状況により補足した。

## 2. 漁業の概要

本種は底びき網漁業における混獲魚種であるが、刺網およびかご網によっても若干量漁獲される。本種は周年漁獲されるが、盛期は11～12月で、県別では鳥取県と兵庫県の漁獲量が多い（図1、2、表1、2）。主要地域においては本種は形態的特徴から他のゲング科魚類と区別して漁獲されており、一部地域ではブランド化もなされている。

## 3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：日本海およびオホーツク海の大陸斜面に知られ、本州日本海沿岸では主に150～870 mに認められるが（Okuyama 2004）、調査船調査結果から主分布水深は200～500 mと考えられる。ロシア沿海州では200～700 mに（Saveliev et al., 2011）、間宮海峡付近では200～600 mに（Saveliev et al., 2012）、それぞれ分布することが知られる。本種は小型魚ほど分布水深が浅い傾向があり、成長に伴う深淺移動が示唆されている（Saveliev et al., 2011、2012）。
- (2) 年齢・成長：沿海州では雌雄に関わらず1歳で全長130 mm、2歳で180 mm、3歳で280 mm程度となり、最大全長は800 mm（10歳）以上と考えられる（Saveliev et al., 2011）。我が国沿岸における年齢・成長に関しては知見がない。
- (3) 成熟・産卵：本州沿岸および大和堆では全長650 mmにおいて成熟すると考えられる（Okuyama 2004）。産卵期および産卵場に関する知見はないが、本種を含むゲング

科魚類の大部分は底質中に産卵することが知られる (Anderson 1994)。

- (4) 被捕食関係：本種の幼魚は多毛類および端脚類を、成魚は十脚類および魚類を主に摂食する (Saveliev et al. 2012)。

#### 4. 資源状態

兵庫県および鳥取県における2024年の漁獲量は前年に比べて減少した (図2、表2)。資源水準は2011年からの漁獲量 (主要な兵庫県および鳥取県) の最大値を三等分し中位と判断した。資源動向は日本海西部 (島根県～石川県沖) の水深200～500 mにおける5年間のトロール調査に基づき、横ばいと判断される (図3、表3)。また、分布密度は隠岐周辺海域で高い (図4)。

#### 5. その他

本種は、主要県では他のゲンゲ類と区別して漁獲されているものの、福井県のようにノロゲンゲを含むゲンゲ類として扱われることもあり、集計値そのものがない地域もある。漁獲量データは継続して収集するとともにさらに精査する必要がある。また、日本沿岸における年齢や成熟等、生物特性については不明である。今後、トロール調査に基づき、現存量だけでなく分布特性やサイズ・年齢組成などを把握するとともに、資源量を推定することが期待される。本稿では、生物特性値としてトロール調査における本種の全長組成 (図5)、全長－体重関係式 (図6) を示した。

#### 6. 引用文献

- Anderson ME (1994) Systematics and osteology of the Zoarcidae (Teleostei: Perciformes). Ichthyol Bull, J. L. B. Smith Inst Ichthyol 60, 1–120.
- Okiyama M (2004) Deepest demersal fish community in the Sea of Japan: A review. Contr biol Lab Kyoto Univ 29, 409-429.
- Saveliev PA., Solomatov SF, Pushchina OI, Balanov AA (2011) Distribution and some traits of biology of *Lycodes tanakae* (Perciformes: Zoarcidae) in Primor'e waters (Sea of Japan). J Ichthyol 51, 745-757.
- Saveliev P a., Balanov a. a., Solomatov SF (2012) Distribution and some features of the biology of the eelpout *Lycodes tanakae* Jordan et Thompson, 1914 (Perciformes: Zoarcidae) in the Tatar Strait, Sea of Japan. Russ J Mar Biol 38, 279-284.

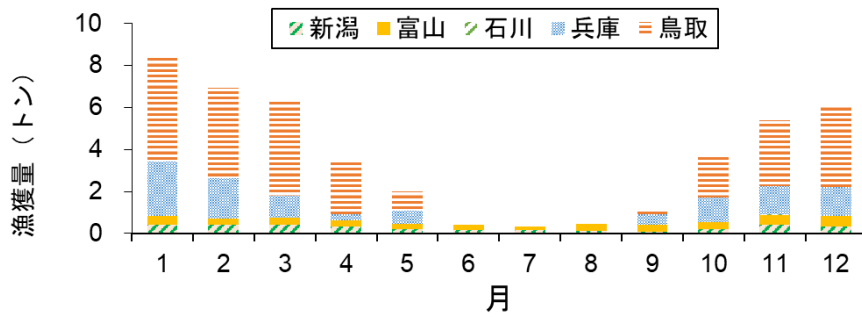


図1. 新潟県、富山県、石川県、兵庫県、鳥取県における2024年月別漁獲量

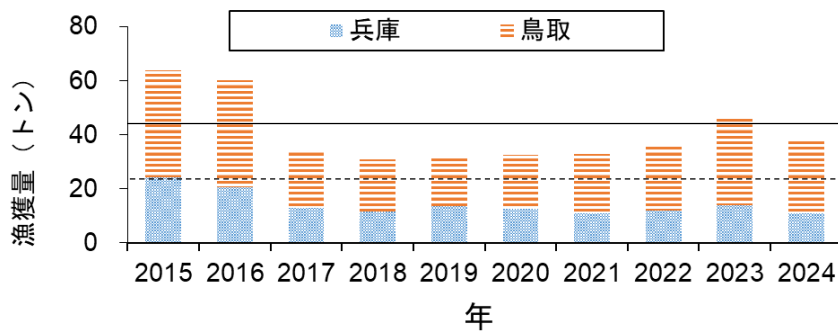


図2. 主要2県（兵庫県、鳥取県）における年別漁獲量  
実線は高位と中位、破線は中位と低位の境界。

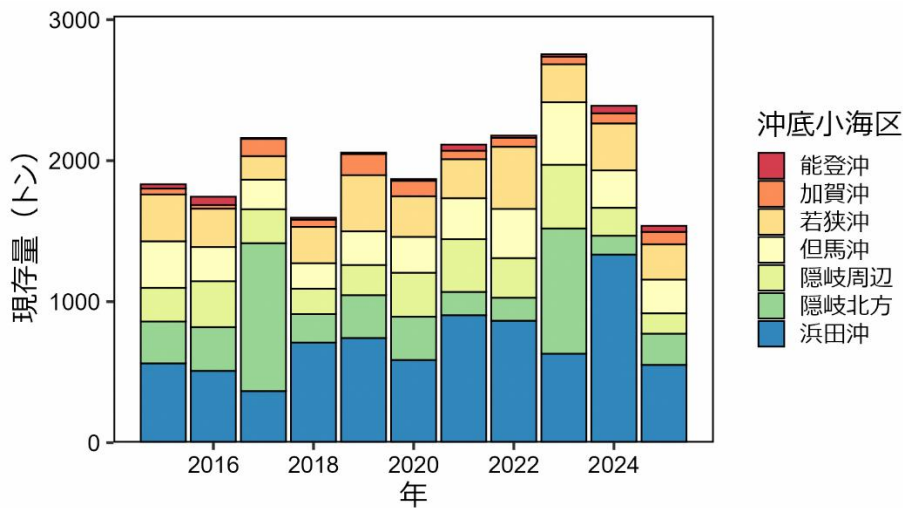


図3. トロール調査に基づく日本海西部における現存量  
トロール網の採集効率を1と仮定した。

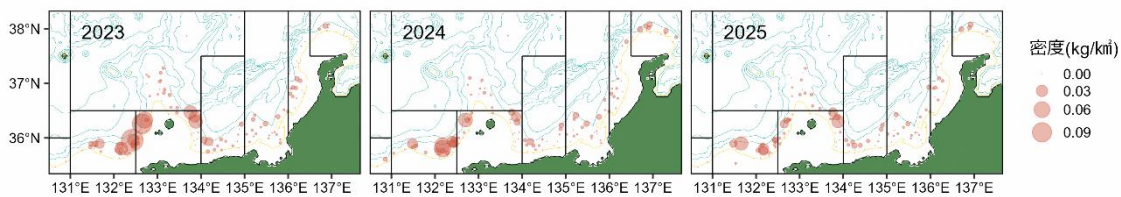


図 4. 2023～2025 年度のトロール調査に基づく採集地点別の分布密度 (kg/km<sup>2</sup>)  
採集効率を 1 と仮定した。

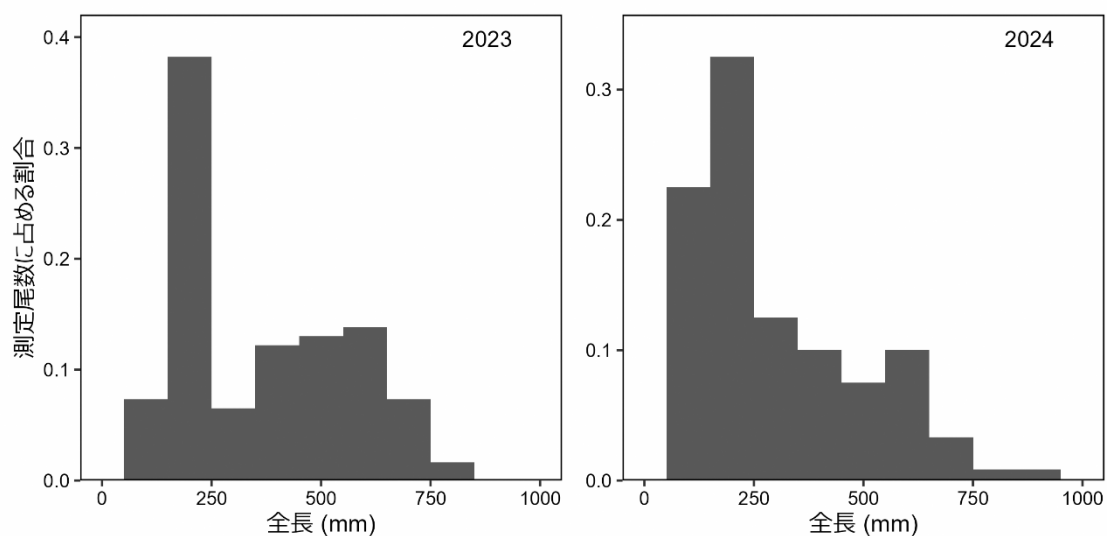


図 5. 2023～2024 年度のトロール調査における全長組成 (N=243)

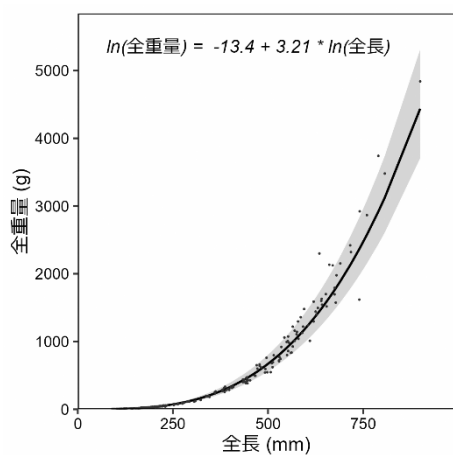


図 6. タナカゲングの全長-体重関係式 (N=243)  
網掛けは 90% 予測区間。

表 1. 2024 年月別漁獲量 (kg)

## タナカゲンゲ

月	新潟	富山	石川	兵庫	鳥取	計	福井*
1	435	401	0	2,577	5,074	8,487	1,150
2	432	260	0	1,934	4,321	6,947	1,400
3	407	338	0	1,068	4,533	6,346	1,415
4	331	279	20	301	2,583	3,514	1,510
5	197	255	10	636	914	2,012	970
6	165	255	0			420	0
7	160	194	0			354	0
8	129	333	0			462	0
9	103	298	10	497	283	1,191	520
10	195	328	30	1,158	2,021	3,732	1,965
11	420	467	46	1,337	3,128	5,398	535
12	317	502	13	1,366	3,875	6,073	680

\*福井県における漁獲量はノロゲンゲを含むため、集計には加えなかった。

表 2. 主要 2 県（兵庫県、鳥取県）における年別漁獲量（トン）

年	兵庫	鳥取	計
2015	24	40	64
2016	21	40	60
2017	13	21	34
2018	12	19	31
2019	13	18	33
2020	13	20	63
2021	11	22	63
2022	12	25	62
2023	14	33	69
2024	11	27	55

表3. 年別現存量（トン）

タナカゲンゲ  
現存量

年	浜田沖	隠岐北方	隠岐周辺	但馬沖	若狭沖	加賀沖	能登沖	計
2015	563	297	239	330	333	41	31	1,834
2016	510	309	326	244	271	27	58	1,745
2017	366	1,049	239	211	166	123	9	2,163
2018	711	203	178	182	256	51	15	1,596
2019	742	304	214	240	398	150	9	2,057
2020	587	305	311	256	287	110	13	1,869
2021	904	165	374	292	276	60	44	2,115
2022	865	163	280	350	441	64	15	2,178
2023	631	888	451	444	269	54	16	2,753
2024	1,334	133	198	266	333	73	52	2,389
2025	552	221	143	240	250	88	44	1,538

日本海西部の水深190mから550mにおいて、採集効率を1として計算した。